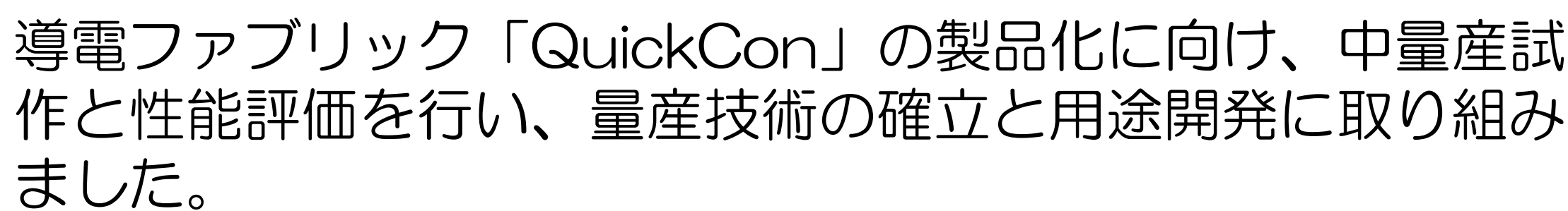


「簡単に貼って使える導電ファブリック『QuickCon』の開発」



企業HP

ウェアラブルデバイスの普及に伴い、柔軟な導電材料への需要が高まっています。一方、導電材料の開発には用途に応じた専門的な知識が必要です。

そこで当社では、繊維加工技術を活かし、「切って貼るだけ」で使える導電ファブリック「QuickCon」の開発に取り組みました。

- ・ 中量産に向けた検証
- ・ 銀メッキ系を使用した導電ファブリックの試作
- ・ 糸切れや品質ばらつきの改善
- ・ 電気特性物性評価
- ・ 大学等とセンサーへの応用検証

- 安定生産に向けた技術基盤を構築
- 糸切れ低減による品質安定化を実現
- 用途に応じた材料設計手法を確立
- 大学とマスク型コンデンサマイクへの応用に成功
- センサー、電極、シールド等への展開可能性を確認



QuickConの特徴

- ハサミで自由な形状に成形可能
- アイロンで簡単に貼り付け可能
- 薄く柔軟で布やフィルムと組み合わせやすい
- 抵抗値の変化やコンデンサ構造が可能

センサー、電極、アンテナ、シールドなど幅広い研究・開発を支える素材を目指しています。

前川 士

開発当初は「導電する布を作る」ことが中心でしたが、大学や研究機関、展示会で多くの方と意見交換する中で、素材そのものよりも「簡単に加工してすぐ試せること」に価値があると感じるようになりました。専門的な設備がなくても、切る、貼る、重ねるといった身近な方法で電気的な機能を試せることがQuickConの面白さです。今後も様々な素材や技術と組み合わせ、新しい使い方を探していきたいと思います。

代表取締役社長
山原 謙治

本事業は、当社が長年培ってきた繊維加工技術を、電子・センシングなど新しい分野へ展開するための取り組みです。補助事業を通じて量産技術を確立するとともに、大学や研究機関との連携により、従来の繊維製品とは異なる用途の可能性を見いだすことができました。今後も繊維の持つ柔軟性や加工性と新しい技術を組み合わせ、既存の技術から新たな価値を生み出す製品開発に取り組んでまいります。